

平成 29 年度 SPARC Japan セミナーの活動計画について

1. 平成 29 年度の考え方

平成 29 年度の SPARC Japan セミナーは、「オープンアクセス温故知新-ふりかえって次をみつける- (仮)」というテーマで、オープンアクセスのこれまでの活動が研究者を中心とした各関係者に対して具体的にどのような利益をもたらしたのか、また利益をもたらすためには何が足りていないかについて議論する。また、オープンアクセスを推進してきた SPARC、SPARC Japan のこれまでの活動を振り返るとともに今後の展望を議論する。

第 1 回は、新しい展開に向け、図書館における業務・機能・サービスを図書館員と研究者の関係から見つめなおし、議論したい。第 2 回は、グリーン OA、ゴールド OA に加えプレプリントサーバの活用が進んでいる状況で、査読のあり方を含めたオープンアクセスに関する活動について議論する。第 3 回（もしくは第 4 回）は、「SPARC Japan の振り返りと今後の 10 年 (仮)」と題して第 5 期に移った SPARC Japan 活動を総括し、SPARC US, Europe から講演者を招いてそれぞれの現在の活動を紹介し、SPARC としての今後の展望について議論したい。

また新たな試みとして、ウェビナーによるセミナー開催（第 4 回（もしくは第 3 回））を検討する。題材としては研究者への啓蒙を目的として、研究データ管理（DMP）、DOI、知財などオープンデータに関する理解を深めるためのプログラムを提供したい。

2. 企画（案）

日程 (予定)	テーマ	WG 担当 (予定) ◎主査	備考
第 1 回 9 月 13 日 終了	<p>○図書館員と研究者の新たな関係 ：研究データの管理と流通から考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館業務、機能、サービスを再考し、新しい展開に向けて何ができるかを研究者と議論する。 ・データリポジトリや研究者 ID など、使う・使わずの研究者のデータマネジメントへの心得 ・RDM トレーニングツールとその実例 (JPCOAR) ・若手研究者から work flow を変える。 	<p>能勢(京大)◎ 中谷(鳥取大) 林(JIRCAS)</p>	<p>・参加数 60 名</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者・出版者とどれくらい協調できるか。 		
<p>第2回 10月下旬 (OAWeek, OA サミット 2017)</p>	<p>○プレプリントサーバと査読システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレプリントが拡大するオープンアクセスの現状の確認 ・プレプリント(arXiv.org)では本来と異なる使い方が始まり、価値を高めた ・学術知識構築への貢献 ・査読システムを含め、論文出版のレガシーの部分はどう変わってきたか。 	<p>坊農(DBCLS)◎ 笹淵(早稲田大) 梶原(室蘭工大)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・候補日：10/23(月)、10/24(火)、10/30(月)、10/31(火) ・本年度 OAWeek テーマ “Open in order to…”、開催期間 October 23-29
<p>第3回 (第4回) (12月～2月)</p>	<p>○SPARC Japan の振り返りと今後の10年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPARC の歴史を振り返り、活動を通してできたことと、できなかったことを確認する。 ・SPARC Japan というブランディングを見直す。 ・SPARC US, Europe の活動紹介と安達運営委員会委員長との意見交換を通じた今後を議論する。 	<p>蔵川(NII)◎ 林(NISTEP) 梶原(室蘭工大)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外招聘可(2名まで想定) ・時期：第2回終了後
<p>第4回 (第3回) (12月～2月) ※webinar</p>	<p>○研究者への啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の報告書にOAかどうかの記載をすることから、OAの認識は広がりつつも、理解がまだ足りない。 ・例えば、研究データ管理(DMP)、DOIへの理解を進める情報提供。 ・知財、オープンデータを利用する際の条件と実例など、ライセンスに関する情報提供。 ・論文執筆や研究活動への関わりを説明することで、研究者のDMPへの啓発をする。 	<p>坊農(DBCLS) 能勢(京大)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・webinarの技術的な課題を整理して開催の可能性を検討する ・時期：第2回終了後